

2021年度聖望学園中学校・高等学校 学校評価

	評価項目	自己評価	達成度	学校関係者評価	第三者評価
1	基本統計 ・学校要覧の発行状況 ・基本統計管理の状況	<p>・学校要覧は、予定通り10月に発行できた。</p> <p>・基本統計の管理は、<u>教務</u>においてスクールエイドにて調査書、指導要録の管理を行い、不備なく管理ができた。<u>生徒部</u>において、指導記録を学年ごとに集計できた。<u>募集広報部</u>においては、過去16カ年間の入試データの蓄積ができた。それを有効に活用することができた。</p>	B	<p>・学校要覧も計画通りの発行であったことは評価できる。</p> <p>・統計の管理も、よく集計管理が進められて、その有効な利用もなされていることは評価に値する</p>	<p>・学校要覧も計画通りの発行であったことは評価できる。</p> <p>・統計の管理も、それぞれの部署において集計管理が進められて、その有効な活用がなされていることは評価される。</p>
2	中期・単年経営計画 ・生徒募集状況 ・教員研修状況 ・5Sの状況 ・CO <sub>2</sub> 削減状況 ・キャリア教育の状況	<p>・生徒募集の結果は中学65名(定員80名)、高校290名(定員300名)の新生入生が決定した。中学校および高等学校で定員が確保できなかった。</p> <p>中学校では適性検査試験を実施が8年目となり受験人数は安定している(応募者は多いが、入学者数の増加にはつながらなかった)。中学全体としては、昨年度に比べ大幅に入学入学者が増加した(34→65)。</p> <p>高等学校では3年連続で定員を確保できなかった。併願者の歩留まりが低い状況があり、定員を満たすには、単願者の増加が課題である。</p> <p>・教員研修は、進路指導では例年多くの教員が、予備校などの主催の研修会に参加し、大学受験指導に向けての知識を吸収し、各教科の教員のレベルアップを図っている。しかしながら、ここ2年くらいはコロナ禍の影響で研修への参加が減ってきている。また、研修自体もオンライン形態のものも増加しておりそちらへの参加は増加している。生徒指導、生徒募集の研修に関してはそれぞれの担当教員が研修を受けているが、一般教員への啓蒙の課題がある。また、ICT教育に関する機器使用方法や授業展開についての新任教員の研修の充実が望まれる。</p> <p>・CO<sub>2</sub>の削減については、ゴミの分別を行い、トイレの電燈の自動消灯化などが取り入れられている。さらに、電灯のLED化も進めている。</p> <p>・キャリア教育は進路指導部内のキャリア部門の指導計画を立てていたが、高校1年生で職業紹介ガイダンスおよび高校2年生での「夢ナビ」は、新型コロナウイルス感染症拡大により実施できなかった。高校3年生では、模擬面接を実施した。</p>	B	<p>・生徒募集の結果、中学、高校とも定員確保は少子化、経済状況など外部要因の影響もあるものと思慮する。</p> <p>・中学受験、応募者増加、入学者約倍増は学校関係者の評価に値する。</p> <p>・高等学校では単願者の増加に向けた対策が一層必要とみる。</p> <p>・教員研修に関しては、昨年同様にその取り組みは評価される。</p> <p>・ICT教育は近年他校も積極的導入を図っている。教員、生徒双方、グループディスカッションなどのコミュニケーションが図れるツールとしての充実を期待する。WEBで配信等、ペーパーレス化の取り組みは評価される。</p> <p>・CO<sub>2</sub>の削減についての取組は評価に値する。時代の求めに応じ更なる取組に期待する。</p> <p>・キャリア教育は、コロナ禍の中止で仕方ない部分は理解出来るが内容としては大事な部分。今後に向けてリモート前提で準備を期待したい。</p> <p>・高校3年生の模擬面接実施は受験機会に向けて必要な事。コロナ禍といえど対策の上今後も実施していただきたい。</p>	<p>・中学では継続的に入学定員が未達に終わったが、前年の結果に比べると30名増やしていることは評価される。高校においては前年と同様の結果であったが、学外環境の厳しさがあることを考慮すると、その成果に至る過程の努力を評価すべきだろう。しかし、3年連続の定員未達を受け止め、特進コースを含めて、魅力や強みをさらに強化して伝える必要があるだろう。</p> <p>・教員研修に関しては、昨年同様にその取り組みは評価される。</p> <p>・ICT教育では単なるツールとするだけでなく、具体的に「生徒の思考を可視化する」を丁寧に取り組みすることで教育効果が期待される。</p> <p>・CO<sub>2</sub>削減についてはすでにある程度の取り組みがなされていると理解されるのであれば、新たな目標や取り組みを設定しても良いのではないかと。</p> <p>・キャリア教育については、ウイルス禍において制限があるが、従来通りの取り組みではなく、代替のプログラム、計画の検討が必要なことは昨年も指摘した。オンラインでの取り組みも含め計画が必要とされる。</p> <p>・全体として、ウイルス禍による制限があり、厳しい実情は理解されるが、「ウィズ・コロナ」が一般的理解となっているので、新たな取り組みを期待したい。</p>
3	組織運営 ・責任体制の整備状況 ・経理状況 ・情報管理状況(個人情報を含む)	<p>・責任体制の整備状況では、各分掌で部長、委員長を中心に分担が明確化され、責任の所在を顕在化させている。</p> <p>・生徒会会計など管理体制は十分に行われている。</p> <p>・個人情報などの情報管理は、教務部が学校共有PC内の共有ファイルの整理をして、情報管理を行っている。</p> <p>・個人情報の学校外の持ち出しは禁止。答案用紙の持ち出しは、管理職の許可のもとに紛失を未然に防いでいる。</p>	B	<p>・組織運営に関しては、報告されているところでは、それぞれの責任が明確になって取り組まれていることは評価される。</p> <p>・問題なし、評価に値する。</p> <p>・問題なし、評価に値する。</p> <p>・問題なし、評価に値する。</p> <p>・引き続き個人情報の管理には注意を払っていただきたい。</p>	<p>・組織運営に関しては、報告されているところでは、それぞれの責任が明確になって取り組まれていることは評価される。</p> <p>・個人情報については、社会全体においてもICT化が進む中、特に徹底した管理が必要とされている。確認体制を日常の中で機能させていただきたい。</p>
4	施設・設備 ・施設、設備の活用と整備の状況 ・施設、設備の点検状況	<p>・環境管理部を中心に、清掃状況の確認や教室備品の整備などが組織的に行われている。</p> <p>年度初めの下足箱、机、椅子の整備は、組織的に行われスムーズに行われた。情報図書においては、既存の映像設備の点検、整備も定期的に行われた。多くの利用に答えている。大型教室における映像機器の利用状況は良好、十分活用されている。また、体育館は空調完備のため、快適な環境での教育活動が実施されている。</p> <p>・トイレの改修工事が校内の7割ほど進んでいる。生徒及び教職員、来校者への快適な生活に寄与している。綺麗なままでの使用の啓蒙が必要である。</p> <p>・ICT教育に関しては中学生高校ともに全学年にiPadを貸出し、教师生徒の双方向の授業展開を実践している。将来を見据えて、全てのHR教室への電子黒板の設置及び校内LAN</p>	A	<p>・教育学習環境の整備としての清掃や備品の整備は例年と同様に良く行われているが、ロッカーなど使用頻度の高い設備における再整備について検討願いたい。</p> <p>・情報通信機器の整備、大型教室、空調完備の体育館が十分活用されていることは評価に値する。</p> <p>・トイレの改修は生徒、教職員のみならず来校者の視線からも気持ちの良いものであり当学園に対する好印象に繋がるものであり、綺麗なままでの使用の啓蒙を継続願いたい。</p> <p>ICT教育に関し中高全生徒にiPadが行き渡り、全HRへの電子黒板</p>	<p>・教育学習環境の整備としての清掃や備品の整備は例年と同様に良く行われていると評価される。</p> <p>・しかし、ウイルス禍において清掃状況の確認などが不十分であることが報告されている。通常に取り組みに制限があることは理解されるが、具体的な取り組み実施計画を立てることが必要ではないかと。</p> <p>・トイレ整備は、受験生、保護者にとっても印象に刻まれる要素と思われる。この取り組みが進むことは大切と思われる。</p> <p>・ICT教育関係に関連したWifi環境は継続的にメンテナンスも必要とされる。またHRへの電子黒板の活用がどのように進んでいるのか確</p>

		の Wi-Fi 環境が整った。		も設置出来たのでこれからはその活用を期待する。	認が求められよう。
5	宗教教育 ・宗教教育の状況 ・宗教的諸活動の状況	・宗教委員会では、生徒と教師ともにキリスト教に触れる機会を与えることを念頭に置いて活動している。 ・コロナ禍により礼拝堂で一同に会しての礼拝ができず、生徒は各教室からオンライン礼拝に参加している。 ・生徒のキリスト教への関心を広げるため、アンケートを実施した。キリスト教行事の企画の参考にした。来年度もアンケート実施を継続したい。	A	・礼拝はもちろん、学校行事においても祈りや礼拝など活動を生徒の参加を持って取り組んでいること、また、キリスト教行事における生徒の参加、また学校全体での礼拝について意識を持って取り組めたことはおおいに評価したい。	・コロナ禍にあつて礼拝のオンライン化に苦労が続いていることかと思うが、クリスマスや特別礼拝も含め、前年度よりも充実した形であったということは評価される。参加しない生徒たちへの指導が課題であろう。 ・イルミネーションなど、生徒たちの参加できる新しい取り組みがなされたことは評価される。 ・キリスト教に触れる機会をどのように増やすか積極的取り組みを検討しているようなので期待したい。
6	教育課程・学習状況 ・教育課程の実施状況 ・学習指導の状況 ・成績の状況 ・ICT 機器を活用した授業の普及	・教務部は、シラバスを予定通り 4 月に発行することができた。各教科はシラバスに沿って授業を展開している。学習の評価・評定の検証や見直しを図った。全学年の 4 コース制の諸問題の検討が課題である。 ・中学生と高校生全員に一人一台 iPad を貸与し、電子黒板を利用した双方向授業の展開および iPad への課題の配信など、ICT 教育の実践を図っている。 ・今年度は、昨年度と同様に新型コロナウイルス感染症拡大に伴う休校があり、その際、iPad を介した遠隔授業を全校生徒に実施できた。これは、生徒の学びを止めることなく学習の機会を与えることができ大いに評価できることである。これは、突発的な休校等にも対応でき、新たな学びの形となりうるものであり、更なる有益な活用が見込める。	A	・多様な生徒に対して、コース別の対応をしていることは評価される。 さらに教育のプロセスにおいても評価・評定においても個別の取り組みが必要と考えられていることは高く評価される。さらなる取り組みを期待する。 ・問題なし、評価に値する。 ・問題なし、評価に値する。  ・コロナ禍ではリモートが必須となりつつあり、評価に値する。	・コース制によって時間割や教室の割り当てなどの苦労が見受けられるが、最終的な調整努力がなされていることを評価したい。 ・新評価方法が導入されたことが分掌での評価には記されている。苦労があるようだが、学校全体の取り組みとしてよく取り組まれていると見られる。 ・ICT 教育では全教員がリモート授業をできるようにするという目標が達成率 100% であることは大いに評価されるが、その質についての意識が高まっていることが窺える。ぜひ、月一回の勉強会が少しでも実現できるよう計画が必要とされる。 ・関連校の連携も工夫されていることと思うが、更なる取り組みを検討し実施していいほしい。
7	部活・行事 ・部活動の状況 ・行事の実施状況	・部活動ではその活動の状況を学校 HP で公表しているが、全体的な充実度が高いとは言えない。最新の活動状況の更新も含め更なる充実を図りたい。 ・国際交流委員会では、新型コロナウイルス感染症拡大のため、サマースクールプログラム(カナダ)、オーストラリアへの短期留学(3月)、ニュージーランド <sup>g</sup> ターム留学のすべてのプログラムは実施できなかった。 ・森林環境委員会の活動としては、聖望の森での作業は一昨年度までで完了。今年度は 6 月の森林体験教室で、名栗棒の峰登山口周辺にて、間伐材の玉切・搬出・ベンチ作りを 30 名ほどの参加者にて実施。10月のEco Forest Dayはコロナ禍の影響のため中止となった。	B	・部活動について受験生も親も活動実態を気にしているしその結果や内容によって学校を選ぶ指針にもなりうる。HP で確認出来ると学校全体の雰囲気やレベルを感じることが出来、入学者の増員にもつながる。 更なる充実を期待したい。 ・コロナ禍で難しい部分もあり、次年度に期待したい。 ・森林の街、飯能市に於いて自然にふれる機会は比較的容易であるし地元との繋がりも期待出来、評価に値する。	・部活動は子どもたちにとってある意味で欠かすことのできない経験となる。大会などの成果だけではなく、経験の質を確認し教育の機会としての位置づけをもって、報告と評価がなされるように願いたい。 ・国際交流は、コロナ禍で計画が実施できなかったことは残念だが、次年度に向けて可能性を確認することが必要だろう。また、代替の形で国際交流が実現されないか、オンラインの活用などは是非検討されることが必要と思われる。 ・森林活動が活動中止となったことは理解される。次年度に期待したい。
8	生徒指導・カウンセリング ・生徒指導体制の状況 ・カウンセリング活動の状況	・生徒指導は、生徒指導委員会が作成したマニュアルに沿ってどの教員でも同じ指導ができる体制は整えた。しかし、SNS 指導と交通マナーを保健体育の授業に反映させることが課題である。 ・教育相談委員会は、きめ細かい相談の対応となっている。カウンセラーが増員され、毎日相談できる体制となった。カウンセラーも含め定期的な委員会を開催し、生徒個々へのきめ細かい対応を目指している。 ・校内に、適応指導教室が設置された。様々な理由で教室に入れない生徒に対し、教室復帰を目的として、生徒の自立支援を組織的に行うことができるようになった。	A	・生徒指導については、生徒、保護者の課題が多様化し、個別の関も増えて苦労も多いことと思うが、粘り強い取り組みを行われていることは評価される。SNS は一歩間違えると危険なので適切な指導を期待したい。 ・生徒会や ICT 委員会との連携を深めることが目指されているので、様々な委員会や活動との結びつきを考え、生徒にとって有効な指導を求めたい。  ・評価に値する。問題なし。	・マニュアルに沿った生徒指導は、学校内に一致した意識と対応を整えるのに有効なものとなっていると評価される。しかし、同時にきめ細やかな対応からマニュアルの検証が絶えず必要と思われる。特に最近のジェンダーや多様性の議論は人権意識の高まりと共に学校の対応について厳しく見られている。検討いただきたい。 ・生徒会や ICT 委員会との連携などが図られてきたことは高く評価される。 ・SNS に関連した問題が多く見られることが報告されている。教職員の中高時代とは全く違う環境になっていることを考え、問題の把握に努め、早めに対策をしていく必要がある。 ・「九州ルーテル」との交流など、新たな展開が生徒の活動を引き上げていくものとなることを期待している。
9	進路指導 ・進路指導体制の状況 ・進路結果	・進路指導は、進路指導体制が確立している。生徒の進路意識をいかに高め、実践させていけるかが課題である。ここ 2 年間、コロナ禍の影響で、現況宿舎が実施できていないのが残念である。 ・進路結果については、例年より上昇しているが、目標から考えると満足な結果とは言えない。	B	・問題なし、評価に値する。 ・厳しい学校側の評価は期待できる。	・適切な指導体制が確立され、良い取り組みがなされてきていることは評価される。ウイルス禍であっても概ね予定された企画・行事が実施できたことは評価される。
10	安全管理 ・学校安全計画の状況	・安全管理については、防災総合訓練を行った。 ・危機管理マニュアルの作成と配布も予定通り行われた。	B	・安全管理の実施は、例年通り、問題なく取り組まれている。 ・安全管理に完全はないものと思われる。	・ウイルス禍にあつて、昨年に続き「リモート防災総合訓練」をされ、さらに反省を活かした改善が行われたことは評価される。



	<ul style="list-style-type: none"> <li>・危機管理マニュアルの作成、活用状況</li> <li>・学校防災計画の作成、実施状況</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタルなまが導入し、緊急地震速報が校内の全員に連絡でき、早期の地震に対する構え、避難ができた。火元責任者掲示と巡回を行った。</li> </ul>		<p>災害も大雨だったり酷暑だったり変容しつつある。</p> <p>マニュアルの見直し、訓練の継続的实施など気を緩めず、生徒、教職員の安全確保に努めていただきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害は今の日本では避け難い。地域の特性を把握し、学校滞在時のみならず、生徒の通学時も含めた安全、防災の意識と具体的な対策への意識が必要となる。今度の課題としてさらに検討してほしい。</li> </ul>
11	<p>保健管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校保健計画の作成、実施状況</li> <li>・健康診断の実施状況</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・養護教諭により、学校保健計画、健康診断の実施は適切に行われた。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症拡大を考慮して、健康診断は学年別に時間差を設けて実施した。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題なし、評価に値する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウイルス禍の中、学校全体の保健計画など適切に対応がなされたことは高く評価される。</li> <li>・また、現実的に生徒、教職員に感染や濃厚接触が起こるなど、それぞれ状況への対応に苦労があったことが想像される。その労に感謝したい。</li> </ul>
12	<p>特別支援教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援生徒への対応状況</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育相談委員会を中心に、相談等を実施した。個別相談が増加している。配慮が必要な生徒への対応について、講師を迎え、研修会を開き教員への意識を高めることができた。今後もより実践的な対応力が望まれる。</li> <li>・学内に「適応指導教室」を設置し、教室に入れない生徒への対応を始めている。まだ課題はあるが、不登校対策として、進級、卒業へとつながっていった。より組織的な運営と通室生徒への支援体制が課題と思われる。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今の生徒が抱える様々な課題、困難に応じていくのはかなり骨の折れることだろうと想像されるが、地道に研修も重ねてよく取り組んでいると評価できる。</li> <li>・問題なし、評価に値する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会の大きな変化、特にウイルス禍は家庭環境にも影響があるものと考えられる。子どもたちに適切な支援を実現するためには、早期発見、情報共有が欠かせない。課題を残しているようなので、ルール化して対応することを実現していただければと思う。</li> <li>・「適応指導教室」の運用が一定の効果をもたらしていることは評価される。個々の生徒のニーズに応えるものであることが期待される。</li> </ul>
13	<p>保護者・同窓生との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者会の状況</li> <li>・地区集会の状況</li> <li>・同窓会との連携状況</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年ごとに保護者会を行い、必要な意見交換が行われている。今年度は、ほとんどの保護者会がオンラインでの開催となった。</li> <li>・例年行っている後援会主催の地区集会は、昨年度と同様は新型コロナウイルス感染症拡大の影響でほとんどできなかったが、後半に入り人数制限をしいて実施した地区もあった。</li> <li>・同窓会に学校での現状を報告し、例年施設・部活動見学会も実施している(今年度は実施せず)。同窓会より、学業や部活において一定の評価を得た生徒に対し、奨励賞が贈られている。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響でほとんどの保護者会がオンラインであった。保護者も慣れて来ている部分はあるが可能な限り学校で集まっでの開催を期待したい。</li> <li>・不慣れな中での開催であったが、オンライン授業の一端を垣間見ることが出来た。</li> <li>・地区集会もオンラインの併用など検討したい。</li> <li>・教職員、PTA・後援会の連携を図り、聖望学園をより良い学校とすべく協力を惜しまない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンラインであっても、保護者との交流が実現できたことで、保護者のさまざまな不安にも応えるものとなったのではないかと。学年ごとの取り組みができたことは高く評価される。</li> <li>・地区集会のオンライン開催は、昨年も検討されていたので、実現に向けて計画をしていただければと思う。</li> <li>・同窓会との連携はなかなか例年のようにはいかなかったことは理解される。生活の状況も多様な卒業生を思うと、オンラインつながりの可能性を検討されることも有効なのではないか。</li> </ul>
	総合評価		B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの部署の活動がしっかりしており、全体としてよく取り組まれていると評価される。それぞれの担当に負担がかかり過ぎないかどうかも同時に確認していただきたい。</li> <li>・ICT 導入が早くから行われていた部分で他校になく聖望学園ならではの活用方法を見出してもらうことで学校の PR にもつながると思われます。</li> <li>・イベントや行事がコロナ禍で制限されてしまう部分、どうしても無難な方向に話が進んでしまうと思われます。リモートや中止ばかりではコミュニケーション能力や人間関係が希薄になってしまう事が懸念されます。思い切った判断を期待したい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体として、落ち着いた良い取り組みがなされているように思われる。マニュアルやルールなどが徹底することで全体の取り組みに一貫性が生まれ、また責任所在がはっきりすることになるだろう。</li> <li>・聖望のICTの取り組みは早かったと思うが、すでにGIGAスクール構想の進む中、多くの学校が横並びになっている。具体的なコンテンツ、また質の向上が必至と思われる。</li> <li>・ウイルス対策はすでに3年目となり、生徒の中でこれまで経験されたものが未経験のまま卒業を迎えるケースもあるだろう。何か代替のものを考えるか、言われるところの「思い切った判断」が必要ではないか。</li> </ul>